

「土砂災害から身を守るために」

静岡県 浜松市立鹿玉小学校 6年 平田 楓奈

今年の元旦、能登半島で大きな地震が起こった。七月には、愛媛県松山市で大雨によって土石流が起き、三人の方が亡くなった。今年も大規模な災害が各地で起きている。

私が三年生の時、熱海で大きな土砂災害が起こった。一瞬にしてたくさんの家が流され、多くの方の尊い命が奪われた。命が助かった方も、それまで生活してきた家や思い出の場所がめちゃくちゃに壊され、不自由な生活を余儀なくされた。なぜ土砂災害が起こるのだろう。疑問に思った私は、あの夏から四年間土砂災害について研究してきた。

私が研究をしたのは、土砂災害が起こるにはどんな条件が関係しているのかだ。土砂災害には、「斜面の角度」「泥と砂と礫の割合」「土の中に含まれる水の量」「雨量」「そこに生える植物の根の様子」「堆積期間」が関係していることが分かった。そして、「法枠」があることによって、土砂災害が起こるのを一定期間防げることが分かった。今まで、いろいろな実験をしたり、土砂災害の起こったところを見学したりして、やはり自然災害は、人間の力で防ぐことはできないと改めて実感した。だから、被害を少なくするためにできる対策をしておくことが大切だ。そして、山を削ったり、盛り土をしたりするのを出来るだけ少なく、人的災害が起こらないようにしていく必要がある。法枠の実験をして、法枠があっても崩れることがあると分かった。「法枠があるからもう大丈夫。」とは言えない。法枠があっても崩れてしまうかもしれない。「雨が止んだからもう大丈夫。」とは言えない。山はもう水を含み切れなくなっていて、崩れるかもしれない。「山を削って新しい道路を作ろう。」斜面の角度が急で、崖崩れが起こるかもしれない。削った場所の地盤が、弱くなってしまふかもしれない。人間が暮らしやすい場所にするために行くことだけ、それが土砂災害の大きな原因になることもある。

夏休みの終わりから、台風十号の影響で、大雨が続いている。浜松市でも、道路が冠水したり、土砂崩れが起こったりした。私が住んでいるところは、みんな安全だというけれど、今回の被害のニュースを見ていて、大雨の怖さを実感した。もし、浜松市でもっと大きな災害が起こってしまったら、私も避難生活を送ることになるかもしれない。小学生の私には、難しいことはできないけれど、私にもできることがある。率先して食事の配膳や支援物資を配る手伝いをしたり、避難してきた人に声をかけて、元気づけたりすることができると思う。

研究の中で、熱海市で保健師として働く優子さんの話を聞いた。その時、災害現場の大変さをすごく感じた。その後実際に、熱海の土石流災害の起こった場所へ連れて行ってもらった。熱海の街は、あの土石流が本当にあったのかと思うぐらい観光客で賑わっていた。けれど、被害にあった場所は、崖がむき出しになっていたり、家の窓や壁が壊れたままになっていたりするところもあった。あの土石流のニュースでよく出てきた、消防隊員の方が必死に呼び掛けている場所にも行った。もし、私がああ現場にいたら、土石流に流されていたかもしれないと思うと、怖くてたまらなかった。自然の恐ろしさがよく分かった。

今まで、自分や周りの人も、「自分の地区で災害は起こらないだろう。」と思い込んでいるところがあった。これからは、災害がどんな時、どんな場所で起こるかを考えて、行動したい。熱海土石流のような被害が起こらないために、土砂災害の研究をして分かったこと、自然の怖さをみんなにも伝えて、命を守る行動をする準備をしていきたいと思った。自然は良いところがたくさんある。

けれど、恐ろしいこともたくさんある。だから、自然の力の恐ろしさを知った上で、自然の良いところを生かしていきたいと思った。